

ホーム名：グループホーム第2東神田の里 けやき					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念に沿ってユニット内で方針を決めて共有している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議で自治会の地域行事等を共有し、入居者と共に積極的に参加している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の方に向けた認知症カフェを開設して相談窓口として利用できるよう準備している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、自治会の会長、副会長、地域包括支援センターの方々に出席していただき、入居者にも、できる限り参加して頂いている。意見や要望を伺い情報を公開している。参加者と話し合いの場を持ち、サービス向上に繋がるように取り組んでいる。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	市町村担当者へは、運営推進会議の議事録を共有している。会議の出席をお願いしているが、参加して頂けていない状況であるが、地域包括センターと連携を取っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を設置して、内部研修会を開催し、研修参加者の情報を各職員と情報共有している。玄関の開錠については、現在実施には至っていない。		
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し、外部有識者に来所頂き研修会を実施し、入浴・排泄介助の際に身体チェックを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の成年後見人の方とは施設管理者を窓口として不明な点はその都度連絡している。また、年間研修計画に権利擁護等の知識向上機会を設定し職員に参加を促している。		

9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約前には必ず事前面接を行っている。契約の締結時や改定等があった場合は書面を作成し説明をして理解していただいている。また、疑問点がある場合は、納得頂けるよう説明し、すぐに回答できない場合は調査、確認し改めて説明するよう努めている。</p>		
10	<p>6</p> <p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ユニットの出入口に意見箱を設置し、ご意見を聞かせて頂くようにしている。また、来訪が少ないご家族にも入居者生活情報を郵送させて頂き、生活状況をお知らせしている。</p>		
11	<p>7</p> <p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>ユニット会議にて業務に関する疑問や不明点の解決策を討議し、ユニットで解決できない内容については、リーダー会議にて起案し施設管理者を通じて反映するように努めている。</p>		
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>勤務シフトは、職員の都合で変更が生じる場合は、要望に沿えるように職員間で調整を行い、勤務変更を行っている。職員から意見を取り入れ環境改善に取り組んでいる。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内年間研修計画を作成し、計画的に研修に参加してもらい、また外部研修への参加も案内し参加を促している。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>年間研修計画内に外部施設での勉強会を組み入れ、同業者と交流を深める機会をつくらせている。また、隣接の施設職員間でも訪問の機会を設け相互にサービス向上の取り組みを実施している。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居希望者には必ずユニット職員が同席し面談を行っている。面談時には御本人から要望や不安な事を聞かせて頂き説明し納得して頂いている。御本人が安心出来ない場合は施設管理者やユニット職員が御本人とご家族に説明し安心、納得して頂く様に努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居相談時には不安な事を聞き取り説明を行っている。説明後でもご家族に不安が残っている時は訪問または来所して頂き施設管理者も交えて説明を行い安心して頂いている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居希望者がまず必要としている支援を本人や家族から聞き取り外部サービスが必要な場合は介護支援専門員や施設管理者と協議し利用の検討を行い適切なサービスの対応に努めている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>毎月2回の手作り食では、調理の仕方を教えていただく等人生の先輩として尊重し、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>入居者の得意な事や好きな事をしながら、思い出話や家族の事を話して頂いている。また、手作り食の際には味付けや料理方法について会話できる良好な関係を築いている。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>知人、親戚の方がお見えの際は、ご本人と訪問者のお話を聞かせて頂き、どのような関係かを理解し関係性が途切れない様に努めている。</p>		
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>お話しが好きな方は隣同士に座って頂き、ゆっくり過ごされる方は孤立される程度に職員が声掛けや傾聴を行い、利用者同士の関わりを促し支え合えるように支援している。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>ご家族やご本人より相談を受けた場合は、お話を聞かせて頂き継続的な支援に努めている。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者とゆっくりとお話をする機会を設け入居後の希望や意向をお伺いする。ご本人に何うのが困難な場合はご家族に伺い本人の意向の把握に努め、できる限り本人本位となるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入居時点で背景や家族構成などフェイスシートとアセスメントシートを用いて詳細に伺っている。また、ご家族やご親戚の来所時にもお話を伺い入居前の生活が継続できるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの状態に変化がある場合は、申し送りノート等で内容を確認し、カンファレンス等で状態を把握するように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書は毎月の会議でカンファレンスを実施し3ヶ月に一度作成している。必要時には、サービス担当者会議やモニタリングを実施し、職員や入居者の意見やアイデアを取り入れ現状に即した計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間の申し送りノートを活用し入居者情報を共有している。毎月カンファレンス会議で話し合い、実践し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活用品、嗜好品等を本人や家族から伺い本人、家族が購入困難な場合は職員が代って購入し柔軟な支援やサービスの提供をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の皆様に協力して頂き、学校行事や地域行事に参加し、社会福祉協議会を通じて地域ボランティア受け入れ希望を伝え、隣接の施設と共同開催で演芸会や演奏会に参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居相談時にご本人、ご家族にかかりつけ医の確認を実施している。入居後も適切な医療を受けて頂ける様に管理医師、看護師と連携しご本人、ご家族に説明を行い適切な医療機関を受診して頂けるように支援している。		

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>申し送りノートを活用し情報や気づきを介護職員間で共有し訪問看護師に伝達し相談している。訪問看護師より主治医の診察が必要と判断の場合は往診日時にとられることなくその都度、提携病院への受診を行っている。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入退院時には、必ず職員が付き添い病院と施設の相互間で情報を伝達する様にしている。入院後は介護サマリーを直ぐ提出し病院関係者とは、介護職員が病院訪問時や電話等で情報共有している。また、施設管理者へその都度、入院中の状態や退院時期についても相談している。</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化や終末期はサービスの変更を行い、事業所が今できることを十分説明をした上で、関係者ができるだけ利用者やご家族の希望に添えるよう考慮し、方針の決定を行い、支援できるように取り組んでいる。</p>		
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変や事故発生時の対応マニュアルを作成している。また、施設内年間研修計画にも応急手当や初期対応の研修を組み入れている。</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に2回の消防訓練を実施し、昼夜の避難誘導、避難経路を確認、共有している。また、隣接の施設とも連携し、安全に速やかな避難誘導ができるよう努めている。</p>		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>入居者ごとに声掛けや誘導の方法を会議で話し合いその人らしいケアに沿った対応を行っている。また、トイレ誘導時は、できる限り他者に分からないような配慮をしている。</p>		
37	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>利用者に対して常に複数の選択肢を提案し自己決定ができるように支援している。また、ゆっくりとお話をする機会を設け希望の表出を得る機会を持つよう努めている。</p>		
38	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>食事や就寝といった日常の暮らしを入居時に聞き取り、その人らしい暮らしを継続して頂けるよう食事提供時間や就寝前介助など柔軟に対応している。</p>		

39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で整容できる様に嗜好品を居室内洗面台へ設置し声掛けを行っている。また、希望に応じて訪問理美容を利用してその人らしい身だしなみが出来るよう支援している。		
40	15 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に一度は利用者と職員が調理する手作り食を実施している。また、おやつの中には季節に合ったお菓子を提供し、食事を楽しんで頂けるよう支援している		
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	食事、水分量の把握は確認表を用いて常時確認できるようにしている。水分補給については複数の飲料を用意し選択できるようにしている。水分、食事量に著しい低下がある場合は訪問看護師や主治医と相談し医療的処置を行っている		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声掛けを行い、就寝前には義歯洗浄剤を用いて清潔保持を行っている。希望者には毎週火曜日に訪問歯科診療を受診して頂き、口腔内の清潔の支援を行っている。		
43	16 ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	水分、排泄チェック表を利用し排泄パターンの把握に努め、適時の声掛けを行い排泄介助を行っている。		
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医や訪問看護師と連携し食事形態や水分補給方法等について工夫している。介護職だけでは不十分な場合は主治医や訪問看護師に相談を行い対応している。		
45	17 ○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	決められた時間枠にとらわれることなく入浴管理シートに基づき利用者の希望を伺い入浴を実施している。入浴されない方には足湯や清拭を実施し清潔保持を行っている。		
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の状態や今までの生活習慣を重視し状況に応じて居室で休んで頂いている。日中に休まれる方は昼夜逆転とならないように休息時間を決め離床を促している。就寝時間については利用者に伺い居室へ誘導し休んで頂いている。		

47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>入居者個々の服薬情報は決められた場所に保管し、すぐに確認できるようにしている。また、往診時は医師上申事項と指示内容を書面で記録し保管している。服薬内容変更後の心身変化については、カンファレンスを用いて共有、確認している。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>職員間で意見を出し合い塗り絵や壁画作成などをレクリエーションとして実施し喜びや達成感を感じて頂けるよう支援している。気分転換の支援として近隣への散歩や買い物、外食や自治会行事の参加も実施している。</p>		
49	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>天候を考慮し散歩の声掛けを行っているが本人の希望により公平に実施できていない。家族から外出希望がある場合はお見送りや送迎手配を支援、実施している。</p>		
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金を持つ事の重要性については職員の理解はあるが家族より紛失が不安との申し出により施設管理となっている。ただし、買い物時は職員が同行し支払い等の支援を行っている。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族や友人から電話や手紙の連絡があった際は利用者の意向を伺いお話や返信を行っている。本人が困難な場合は職員が代弁者や代筆者となり関係が途切れないよう支援している。</p>		
52	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間においては、時間帯に応じて職員がカーテンで光の調整を行い入居者が心地良く過ごせるよう工夫している。また、フロアには季節に応じた物を利用者と作成し飾ることで季節感を感じる環境作りをしている。</p>		
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになったり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>限られた共用空間において一人で過ごして頂けるスペースの確保は困難であるが、要望を伺い定期的にテーブル位置や座席位置を変更し思い思いに過ごせる工夫をしている。</p>		
54	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に家族の写真や思い出の品をお持ち頂き本人の意向を伺いながら心地よい空間となるよう工夫している。ベットではなく、畳で就寝を希望される方にも柔軟に対応している。</p>		
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室やトイレの場所が理解困難な利用者に向けて場所を大きく表示したり、職員が誘導するなど、混乱が少なくなる様な対応をしている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は活き活きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない